



東京大学附属図書館特別展示

総合図書館 貴重書展

◆原資料の保存と電子化による情報発信◆

平成22年 10月29日(金) — 11月14日(日)

東京大学附属図書館

展示資料目録



ごあいさつ

東京大学附属図書館では、毎年、全学で所蔵する貴重な資料を学内外の皆様にご覧いただくため特別展示を行っています。

今年度は、「総合図書館貴重書展－原資料の保存と電子化による情報発信－」と題し、開催することといたしました。

東京大学総合図書館は、大正12年(1923)の関東大震災で図書館の全焼、資料の焼失という甚大な被害を受けました。その後、ロックフェラーJr.氏による図書館の再建に加え、国内外から数多くの資料の寄贈をいただきました。その中には、「南葵文庫」、「青洲文庫」など質量ともに充実した貴重な資料も含まれています。現在では、附属図書館の蔵書冊数は890万冊を超え、国内の大学図書館では随一の蔵書数を誇っています。

学術情報の世界では、これまで紙媒体の資料が中心でしたが、昨今は、電子的な資料も普及し利用されるようになってきました。図書館でも、本学の研究成果を電子媒体で蓄積・公開するシステム「機関リポジトリ (UT リポジトリ)」を整備し、また、貴重資料の電子化にも取り組んでいます。これらは附属図書館のホームページから自由にご覧いただくことができます。今回の展示は、総合図書館所蔵の電子化した貴重書を中心に、約60点をご紹介します。普段目にすることの少ない貴重な原資料をこの機会にぜひご覧ください。

平成22年10月

東京大学附属図書館長
古 田 元 夫

目 次

ごあいさつ	1
はじめに	4
展示資料解説	5
参考文献リスト	25
展示資料リスト	27

はじめに

今回の展示は、東京大学附属図書館ホームページより提供するコンテンツ“電子化コレクション”のなかから「電子版貴重書コレクション：総合図書館所蔵古典籍」で公開している貴重書を中心に展示します。

この企画は、日頃電子版でしか観ることのできない原資料を展示して、インターネット上で資料を利用する便利さと、実際に原資料を閲覧して感ずることができる味わい深さの双方を実感していただくことを目的としたものです。

「電子版貴重書コレクション：総合図書館所蔵古典籍」で公開されている69点の資料は、東京大学総合図書館で原本を所蔵し、利用者からの複写依頼に基づいてマイクロフィルムに撮影された古典籍1,000点以上のうち貴重書に指定されている和書を実験的に電子化したものです。

今回展示する資料は上記貴重書のなかから、以下の4つのカテゴリーに属する22点を選定するとともに、それぞれのカテゴリーの関連資料33点を加えた55点の資料を展示します。内訳は以下のとおりです。

① 浄瑠璃	11点
② 随筆、絵図、絵巻	17点
③ 儒学、漢詩	16点
④ 物語	11点

展示資料解説 [凡例]

- *カテゴリー番号、カテゴリー内通番
- *書名（ふりがな）
- *著者
- *刊年〔西暦〕
- *総合図書館請求記号等は【】で表示

展示資料解説

1. 浄瑠璃

1-1. 浄瑠璃十二段の草紙（じょうるりじゅうにだんのそうし）

慶長末頃あるいは寛永年間？ 刊本（古活字本）【貴重書 A00:5800】[青洲文庫]
75 丁



『浄瑠璃御前物語』『浄瑠璃姫物語』とも呼ばれ、浄瑠璃の起源となった作品。浄瑠璃姫と源義経との一夜の恋物語を抒情的に描く。座頭たちの語りによって人気を博し、その節が浄瑠璃と呼ばれるようになった。

展示資料は、浄瑠璃物語の最古の刊本であり、古活字本である。

1-2. こあつもり 3 点

1-2-1. こあつもり

江戸 刊本 うろこ形や孫兵衛板 【貴重書 A00:霞亭:836】 [霞亭文庫]
11 丁 第 4 丁欠 6 段 17 行正本 題簽には、鳥居清信画とある。

1-2-2. こあつもり

江戸 刊本 うろこ形や[孫兵衛板] 【貴重書 A00:4239】
12 丁 6 段 17 行正本 絵師は鳥居清信か。(説経正本集解題より) 題簽には「一の谷小敦盛」とある。

1-2-3. こあつもり

江戸 正徳 5 年[1715] 刊本 西村傳兵衛板 【貴重書 A00:6284】
10 丁 6 段 17 行正本

「こあつもり」は、『平家物語』に描かれる平敦盛の遺児を主人公にした作品。この題材は、近世初期に説経、御伽草子、古浄瑠璃などとして流布した。竹本義太夫と近松門左衛門提携以前の浄瑠璃を古浄瑠璃という。説経など先行する語り物の影響を強く受け、登場人物の心理描写や演劇性は未熟な段階である。

展示資料 1-2-2 は、江戸中期に説教正本シリーズの一冊として刊行されたものらしい。資料 1-2-1 を元に復刻したものと考えられている。絵入細字本で節譜はなく、正本と言っても読み物に近い。



(1-2-1)



(1-2-2)



(1-2-3)

1-3. 傾城反魂香 (けいせいはんごんこう)

近松門左衛門 京都・大阪 刊本 山本九兵衛・山本九右衛門版 【書庫 E28:109】

[青洲文庫]

83 丁 7 行正本 節譜あり



宝永 5 年 (1708) 初演。近松作の三段の時代物。作品の主眼は、遊女みやの絵師元信への愛情で「三熊野かげろふ姿」が最大の見せ場だが、現在上演されるのは、主人公不在の「将監閑居の場」。竹本義太夫に代わり座本となった竹田出雲は、からくり芝居の出身で『傾城反魂香』の演出にもからくりを用いたとされる。

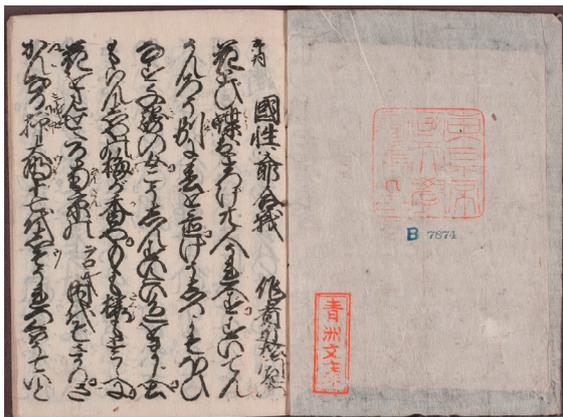
展示資料は、全段を収録した 7 行正本。

語り方を示す節譜がつく。山木版という海賊版も出回った山本版正本には、正統性を示す印が入る事が多いが、展示本には見られない。

1-4. 国性爺合戦 (こくせんやかっせん)

近松門左衛門 大阪 加嶋清助版【書庫 E28:11】 [青洲文庫]

102 丁 7 行正本 節譜あり 題簽には、紙屋興右衛門板とある。



正徳 5 年(1715)初演。近松作の五段の時代物。17 カ月に亘る大ヒットとなり、竹本義太夫死後の竹本座を救った。主人公、和藤内(和でも唐でもないの洒落)のモデルは、明朝の復興運動を行った鄭成功(国姓爺)。日本人の血も引く鄭成功の大活躍と中国の異国情緒溢れる舞台を鎖国下の観客は楽しんだのであろう。

展示資料は、全段を収録した 7 行正本。

1-5. 仮名手本忠臣蔵 (かなでほんちゅうしんぐら)

竹田出雲・並木千柳・三好松洛 江戸 刊本 伊勢屋喜助板 【書庫 E28:634】

上巻 79 丁、中巻 60 丁、下巻 65 丁、11 段 6 行正本 節譜あり

大序標題紙に、大坂屋秀八板とある。



寛延元年(1748)初演。時代物三大名作のひとつ。元禄 15 年(1702)の赤穂浪士討ち入りを「太平記」時代に仮託して描いている。必ず大当りを得るため劇界の独参湯(起死回生の妙薬)と言われ、全編すべてがみどころといってよい。

展示資料は、全段収録の 6 行正本。芝居を丸ごと収めた正本は丸本とも呼ぶ。複数の板元の名が認められる。別々に出版されたものを後で合本したものか。

1-6. 恋歌の意趣 忠臣蔵 三つ目 (こいかのいしゅ ちゅうしんぐら みつめ)

竹田出雲・並木千柳・三好松洛 明治16年[1883] 刊本 片山金三郎版

【書庫 E28:623】 [青洲文庫]

43丁 5行正本 節譜あり 標題紙に、加嶋屋清助板とある。



塩谷判官の妻、顔世御前への恋の遺恨から高師直が判官に屈辱を与えて刃傷となる場面。続く四段目で塩谷判官は切腹し、四十七士の討入へとつながっていく。

展示資料は、5行の抜本(ぬきほん)。上記1-5の丸本の三段目上と下に相当する。抜本とは、芝居の一場面だけを抜き出したもので、主に趣味として浄瑠璃を楽しむ人たちの稽古用に用いられた。

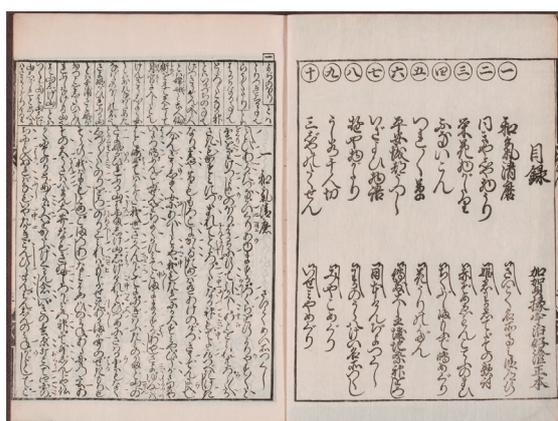
1-7. 乱曲揃 (らんぎょくぞろえ または そろえ)

山田清作編 東京 米山堂 大正9年 刊本【書庫 E28:120】

稀書複製会による複製本

八文字屋八左衛門 天和1年[1681]刊の複製

加賀掾宇治嘉太夫正本 13丁 14行 節譜あり



浄瑠璃の語り方は、秘伝とされ素人の浄瑠璃愛好家が語り方を知ることは困難であったが、宇治加賀掾によって節付の浄瑠璃本が初めて刊行された。こうした稽古本は、段物集と呼ばれる名場面を集めたものから、全段を収めた正本(丸本)まで幅広く刊行された。

展示資料は、浄瑠璃10作品の中から、乱曲と呼ばれる技巧的でクセのある曲を選んで収録した頭注付絵入段物集で、稽古本刊行初期に出版されたものの復刻版である。

1-8. 絵本浄瑠璃絶句（えほんじょうるりぜっく）

葛飾北斎画 江戸 角九屋甚助 文化12年[1815] 刊本 【書庫 E28:35】

[青洲文庫]

28丁



浄瑠璃の54の名場面を、その聴きどころと共に葛飾北斎の美しい版画で紹介する。奥州安達原や妹背山女庭訓など現在でも上演される人気演目ばかりを集める。文化12年(1815)頃にはすでに浄瑠璃演目が古典化し、人気作品が繰り返し上演されていた。

1-9. 再春菘種蒔（またくるはるすずなのたねまき）

櫻田治助[ほか] 江戸 山本平吉 天保3年[1832]-天保15年[1844] 刊本

【書庫 鷗 E28:613】 [鷗外文庫]

仮綴じ 16丁 節譜あり



浄瑠璃には、古浄瑠璃や義太夫節の他、歌舞伎所作事地として演奏される浄瑠璃もある。「再春菘種蒔」は、「舌出し三番叟」「志賀山三番叟」ともいわれる祝儀性の高い歌舞伎舞踊。文化9年(1812)江戸・中村座で、後の初世清元延寿太夫である豊後路清海太夫と長唄の掛け合いによる演奏により、3世中村歌右衛門が初演した。

展示資料は、清元延寿太夫の正本集。清元(清元節)は、浄瑠璃諸流派の中で最も新しいもので、江戸時代後期に清元延寿太夫によって創始され、主に歌舞伎の伴奏音楽として発展した。

2. 随筆・絵図・絵巻

2-1. ありのまま

陸可彦撰 春嶺・雪山画 京都 文化4年〔1807〕 刊本 【貴重書 A00:4163】



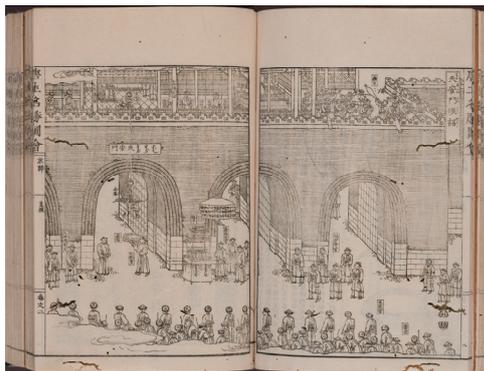
史談、逸話、古事、雑説などを集めた随筆。編者の端書にある「こゝろもことばもつたなけれど、見きく事のありのままなれば、よし、これをもて名よかしと、いふまゝに、やがて此れいつまきとなしぬ」が題号「ありのまま」の由来か。

また、編者陸可彦は、木村兼葭堂を介して「唐土名勝図会」の校本をなしたとされている。

その後「唐土名勝図会」は、岡田玉山の手で改作出版された。

2-2. 唐土名勝図会（もろこしめいしょうずえ）

岡田玉山編・画 岡熊岳〔ほか〕画 文化3年〔1806〕 刊本 【書庫 J50:1】
〔南葵文庫〕



江戸化政期、国内紹介として名所絵図が数多く発行されたが、本書は明らかにそれらとは一線を画するもので、史跡・名勝、法律制度、人物故事、器物・風俗などを記している、いわば中国清時代の歴史地理研究書といえる内容である。

「引用書目」に掲げられた資料は実に51点にも及び、鎖国下のもと可能な限り資料を収集した跡が窺える。

地理関係は「輿地一統各府全圖」「宸垣識略」、祭祀・礼楽は「欽定万寿盛典」「欽定南巡盛典」、器財・衣服は「皇朝礼器圖式」「欽定靈台儀象志」などを参考にしている。全六編で中国全土を対象とする予定であったが、残念ながら二編以降は刊行されなかった。

2-3. 近世奇跡考（きんせいきせきこう）

山東京伝著 喜多武清画 大坂 江戸 文化元年〔1804〕 刊本 【貴重書 A00:5957】



京伝の考証随筆である。凡例によれば、古い時代の考証は良くされるが、さほど昔の時代ではないため、疎かに扱われがちな近世初期の事物について考証したという。

また考証にあたっては、些細なことでも典拠が得られなければ載せない、“奇を好むにすぎて、あらぬ虚譚（きょだん）を述べ、考え疎かにして口碑の誤りを伝える説と同じく見ることなかれ”とあり、考証内容に自信のほどが窺える。

本書は馬琴の旧蔵書で、巻之五「英一蝶傳」と同巻末に馬琴の自筆書入跡が認められる。当館所蔵の馬琴自筆本「馬琴日記」の筆跡と比べて見るのも面白いかもしれない。

2-4. 馬琴日記パネル2枚

「馬琴日記」天保5年〔1834〕 滝沢馬琴自筆本 【貴重書 A00:4613】
[焼け残り本]
表紙と十一月朔日の箇所

2-5. 京伝筆禍 洒落本3冊

2-5-1. 手段詰物娼妓絹麗（てくだつめものしょうぎきぬぶるい）

山東京伝著 寛政3年〔1791〕 刊本 【文・国語所蔵 8A-5-87】

2-5-2. 錦之裏（にしきのうら）

山東京伝著 寛政3年〔1791〕 刊本 【書庫 E24:818】 [青洲文庫]

2-5-3. 仕懸文庫（しかけぶんこ）

山東京伝著 寛政3年〔1791〕 刊本 【書庫 E24:833】 [青洲文庫]

享保7年（1722）享保の改革以来、好色本の出版は禁止されていた状況下で、寛政3年（1791）京伝の洒落本3冊「娼妓絹麗」「錦之裏」「仕懸文庫」が蔦重から出版された。3冊とも浄瑠璃や歌舞伎で知られた人物を登場させ、巧みに舞台の設定を変えてはいるが、深川や吉原の遊郭を題材にしており、発売に際し袋表に「教訓読本」と記して販売した。この3冊は、行事改め済みの刊行にもかかわらず、禁令に触れるとのことで奉行所の吟味するところとなり、京伝は手鎖五十の刑を申し渡された。

詳しくはパネル「吟味始末書」のとおり。

2-6. 吟味始末書 パネル1枚

「山東京傳」 宮武外骨編 国書刊行会 大正10年〔1921〕 【書庫 H20:659】
12 ページ「吟味始末書」

2-7. 年中行事之図（ねんちゅうぎょうじのず）

菱川師宣画 江戸 柏屋与市 延宝8年〔1680〕 刊本 【貴重書 A00:6567】



現在確認できる唯一の初版本。師宣の月次当世風俗絵本として重要なものであり、正月は三図二月・六月・十二月は各一図、他の月は二図ずつ描かれている。

2-8. 築山庭つくし（つきやまにわつくし）

菱川師宣画 江戸 鱗形屋 元禄4年 [1691] 刊本 【貴重書 A00:5773】

2-9. 餘景作り庭の圖（よけいつくりにわのず）

菱川師宣画 江戸 辻村五兵衛 刊本 【書庫 F60:45】

庭尽くしの絵本。種々の庭と、そこに遊ぶ人々を描いたもの。本書は延宝8年（1680）の初版本から復刻されたものだが、その後、画中の全人物を削って埋木で図を処理したものに改められる。



2-10. 東海道網目分間之図（とうかいどうこうもくぶんけんのず）

遠近道印作 菱川師宣画 江戸 板木屋七郎兵衛 元禄3年 [1690] 刊本
【貴重書 A00:468】

初印本。遠近動印（富山藩医藤井半知）が作図した下図をもとに、師宣に清書を乞い、麗しい風俗に改めて刊行したことが序文に記されている。



2-11. 團扇繪づくし (うちわえづくし)

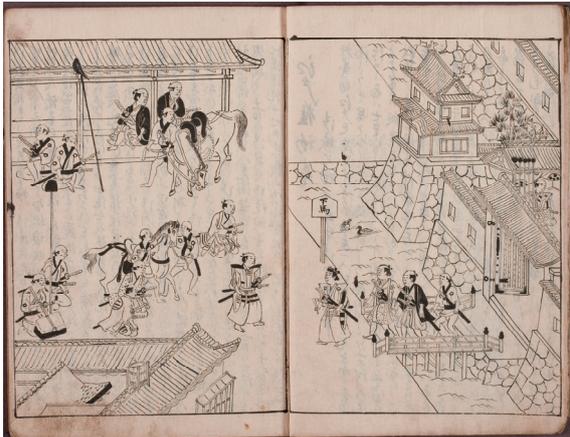
菱川師宣画 江戸 鱗形屋 天和4年[1684] 稀書複製会 昭和4年 複製版
【書庫 F30:302】



団扇と扇の中に様々な図様を描き、解説を添えたもの。団扇絵・扇絵に関する最初の絵本。本書は天和4年版(岩崎文庫本)の影印本である。

2-12. 江戸すずめ (えどすずめ)

写本 上・下巻 【書庫 J30:1098】



近行遠通は、遠近道印と同一人物で、富山藩医藤井半知と推定されている。江戸の各所を描いた三十四図の師宣の挿図は秀逸で、当該期の師宣の基準作となっているが、残念ながら本書は写本であり、師宣の画風がどこまで再現されているかは不明である。

2-13. 百鬼夜行図 (ひゃっきやこうず)

土佐行秀画 蔭山広迢模写 1軸 【貴重書 A00:6275】

百鬼夜行は今昔物語などの説話にてでくる言葉で、京の大路を夜な夜な化け物たちが練り歩く様子を表している。

室町時代(16世紀)になって、青鬼、赤鬼のほか琴や琵琶、鍋や釜などの器物、調度などが変化(へんげ)した付喪神(つくもがみ)と呼ばれる化け物を集めて連続的に描く「百鬼夜行絵巻」が登場し、数多くの絵巻が描かれた。なかでも京都・大徳寺真珠庵の絵巻は、「百鬼夜行絵巻」最古のものとされ、その源流といわれている。

現在、現存しているもののほとんどは江戸時代に模写されたものであり、本絵巻もその一つである。

奥書によれば、土佐行秀の画を蔭山源広迢が写したもので、真珠庵本に登場する妖怪に加え「ぬっぺぼうし」、「どうもこうも」など江戸時代の妖怪たちも紛れ込んでいる。

絵巻の巻末は「火の玉」と「朝日」で終わる2パターンあるが、本巻は「朝日」で終わっている。



2-14. 蕪村妖怪絵巻（ぶそんようかいえまき）

複製版 乾 猷平編 大坂 北田紫水文庫 昭和3年 [1928] 1軸

【文・国語所蔵】

江戸俳諧中興の祖といわれ、俳画の創始者でもある与謝蕪村も妖怪の絵巻を描いている。蕪村が丹後の宮津で絵の修業をしていた宝暦4～7年（1754～57）の間に描かれたとされ、寄寓していた見性寺の欄間に張られていたと伝えられている。

現在、原典は所在不明だが、本巻は昭和3年に北田紫水文庫から復刻された物である。

8点の妖怪が描かれており、また絵柄はユーモアを一層強調したもので、所謂マンガ的といえる作風である。

2-15. 暁斎百鬼畫談（きょうさいひゃっきがだん）

河鍋暁斎画 東京 岩本 俊 明治22年 [1889] 折本 【書庫 F30:260】

幕末・明治初期の鬼才画家河鍋暁斎の妖怪画集「暁斎百鬼畫談」は、折り本形式で作られてはいるが、絵巻ともいえる絵本である。

暁斎ならではの圧巻の筆技と、骸骨軍団と妖怪軍団の対立場面など独自のアイデアを加えた本書は、「百鬼夜行絵巻」の源流とされている大徳寺真珠庵本から代々描き続けられた数多の妖怪絵巻の集大成といったら過言であろうか。

